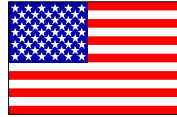
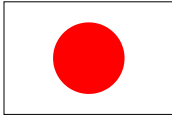


# JSDFEとSAMEとの第3回ジョイントミーティングを開催



JSDFE/SAME 会議参加者

(一社)防衛施設学会(以下、JSDFE)は、平成31(2019)年4月18日(木)、ニューサンノー米軍センターにおいて、米国軍事技術者協会(Society of American Military Engineers。以下、SAME)との第3回ジョイントミーティングを開催した。

これまでJSDFE側のホストで開催してきた同ミーティングであるが、同日、在日米軍主催のインダストリアルフォーラムが同センターで開催されていたこともあり、今回SAME側のホストでの開催となった。

ミーティングには、JSDFE側から渡邊一浩副理事長以下15名、SAME側からエリック・ワーナー太平洋地域副会長以下21名が参加し、互いの発表、意見交換を行った。

JSDFE側は、JSDFE主催の恒例行事への参画や学会誌MIRAIへの寄稿等、これまでのコラボレーションの継続を求めたほか、①学生会員を対象とした在日米軍基地研修に係る支援依頼、②在日米軍基地内に所在する歴史的建造物に係る共同調査の提案、③SAMEが2020年に創立100周年を迎えることを踏まえた両者間におけるアグリーメント締結に向けた具体的調整の開始等を提起した。

議論を通じ、これらの課題に対してワーキング・グループを作るなどして具体的な作業を進めることで認識が一致した。

ミーティングを総括し、渡邊副理事長は「今日の在日米軍主催のフォーラムは官民連携を期待し開催されているものであるが、現実的には直接の連携は難しく、まさにSAME/JSDFEのような中立的な組織の重要性が増してきている。これからもSAME/JSDFEの連携を大切に育てていこう」と述べたのに対し、エリック・ワーナー副会長は「インダストリアルフォーラムにおけるシンポジウムで米陸軍工兵隊日本地区司令官

(Commanding Officer, U.S. Army Corps of Engineers, Japan District (JED))から防衛省と在日米軍との連携の話があり、非常に頼もしいものを感じているが、公職は短期間での人事異動の繰り返しで実行に至らない場合が多々ある。他方でJSDFE/SAMEメンバーはそれよりもレンジの長い期間を共に過ごす間柄であり、この民間レベルでの交流が今後、公に求められる時期が間違いなく来る」と述べた。

今後もJSDFEはSAMEとの連携を通じ、民間レベルにおける日米交流の場を提供していくこととしている。

(文責：深和岳人)



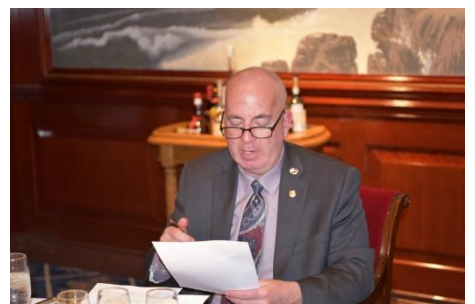
ワーナー太平洋地域副会長の挨拶



JSDFE側からの説明



渡邊一浩副理事長による会議総括



ワーナー太平洋地域副会長による会議総括